

## 平成 28 年春期 情報セキュリティスペシャリスト試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2016,6,17

4 月 17 日 (日) に行われた平成 28 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、情報セキュリティスペシャリスト試験の合格発表コメントをお知らせします。

### ■情報セキュリティスペシャリスト試験 (SC)

[平成 28 年春期の情報セキュリティスペシャリスト試験 統計情報]

応募者	26,864 人
受験者	18,143 人
合格者	2,988 人
合格率	16.5%

平成 28 年春期の情報セキュリティスペシャリスト試験の合格率は 16.5%で、前回の 16.6%とほぼ同じです。それ以前は平均して 14%前後が多く、約 2%ほど増えています。まず、午前 I と午前 II の試験の分析結果をお知らせします。

#### (午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

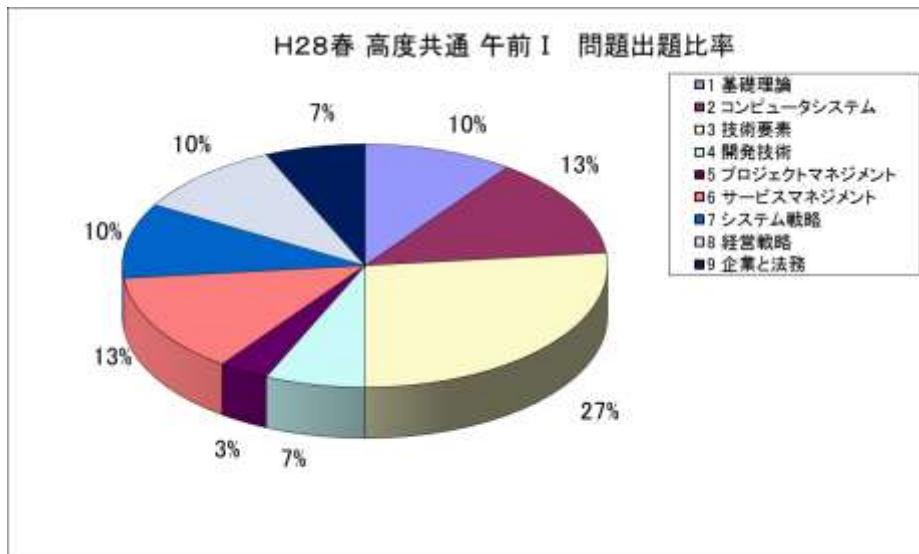
- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。これまで、AP の問題の中でも比較的素直で常識的な問題が選ばれていましたが、基礎理論の計算問題が例年どおり少し難しく、他の分野もこれまであまり出題されていない内容が何問かありました。
- ・過去問題の比率は約 6 割で従来どおりの比率といえます。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容 (中分類) からは複数出題されています。現在はセキュリティ分野を重視した出題になっており、出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・新傾向問題は次の 2 問で、従来よりも少ないといえます。

(新傾向問題)

問 5 ライブマイグレーションの概念

問 21 クラウドサービス導入検討プロセスのシステム監査

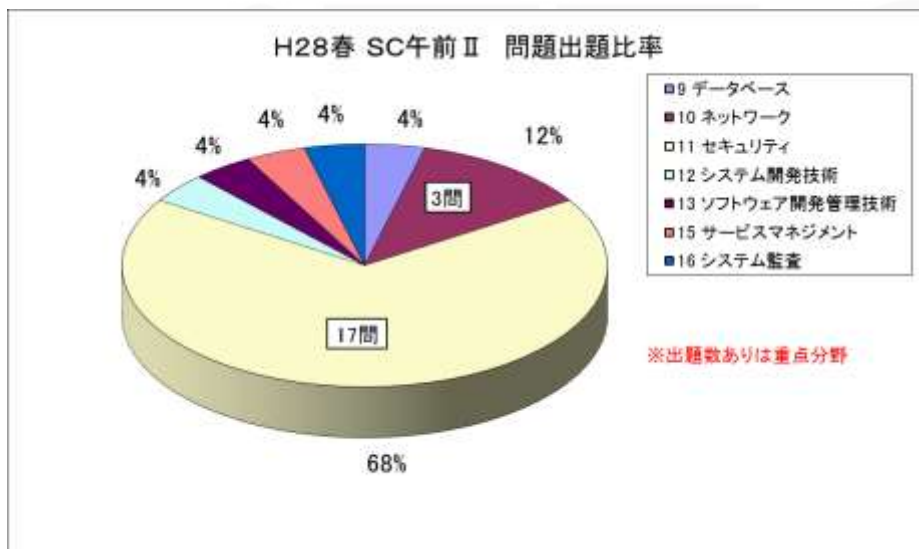
平成 28 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II 試験 (専門知識問題))

午前 II 試験は基本的な問題が多く、セキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ 17 問と 3 問の合計 20 問でした (前回と同じ)。

平成 28 年春期の情報セキュリティスペシャリスト試験 午前 II 問題出題比率



新傾向問題は次のとおりです。少し難しい問題もあり、全体の難易度は前回よりも少し上がったと思われます。

- 問 2 攻撃者がサービス不能にしようとする標的
- 問 6 エクスプロイトコードに該当するもの
- 問 9 暗号の処理によって出力可能なもの
- 問 10 サイバー情報共有イニシアティブの説明
- 問 17 電子メール暗号化プロトコルの組合せ
- 問 19 DHCP メッセージの順序

次に、午後 I と午後 II 試験の分析結果をお知らせします。

### (午後問題)

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。前回試験よりもやや問題分量が少なくなつたといえます。

・出題内容はすべての問題で技術系の知識が必要で、午前Ⅱ専門知識の理解度を高めておくことが重要といえます。なお、セキュアプログラミングの出題(問3)が3回ぶりにありました。

問1 Webシステムの開発(食品製造会社の懸賞応募受付システム) やや易～普通

XSS脆弱性、URLのホスト部(FQDN)、攻撃用HTMLソースコード、CSRF対策、対応策の画面遷移、再発防止策、スクリプトによる入力値検査、データの厳密な定義

問2 DMZ上の機器の情報セキュリティ対策(機械部品製造会社) やや易～普通

機器の機能、ドメイン設定、攻撃の例、プロキシサーバ設定の点検、DNSキャッシュへの攻撃、HTTP over TLS通信、CONNECTメソッド、メールサーバの設定変更

問3 スマートフォンアプリケーションの試験(買物システム) やや易～普通

スマホアプリの機能、サーバ証明書検証試験、検証試験環境、試験方法と項目、証明書検証不備により影響検討、中間者攻撃、無線LANアクセスポイントの設定細工

・午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。2問ともマルウェア感染対策の設問を含んでいます。また、標的型攻撃についても出題も9回連続でありました。問題に関連する知識がないと60点を取るのが難しい内容で、専門知識の理解度を高めておく必要があります。問題文の量が相変わらず多いので、要領よく問題事例を理解する必要があります。

問1 CSIRT構築とセキュリティ設計(独立系ソフトウェア開発会社) やや易～普通

セキュリティポリシー、会社のCSIRTの運用手順と現状、発生インシデント、アセスメントと改善、マルウェア感染、攻撃内容、セキュリティ設計見直し、対策案、脆弱性情報ハンドリングと課題

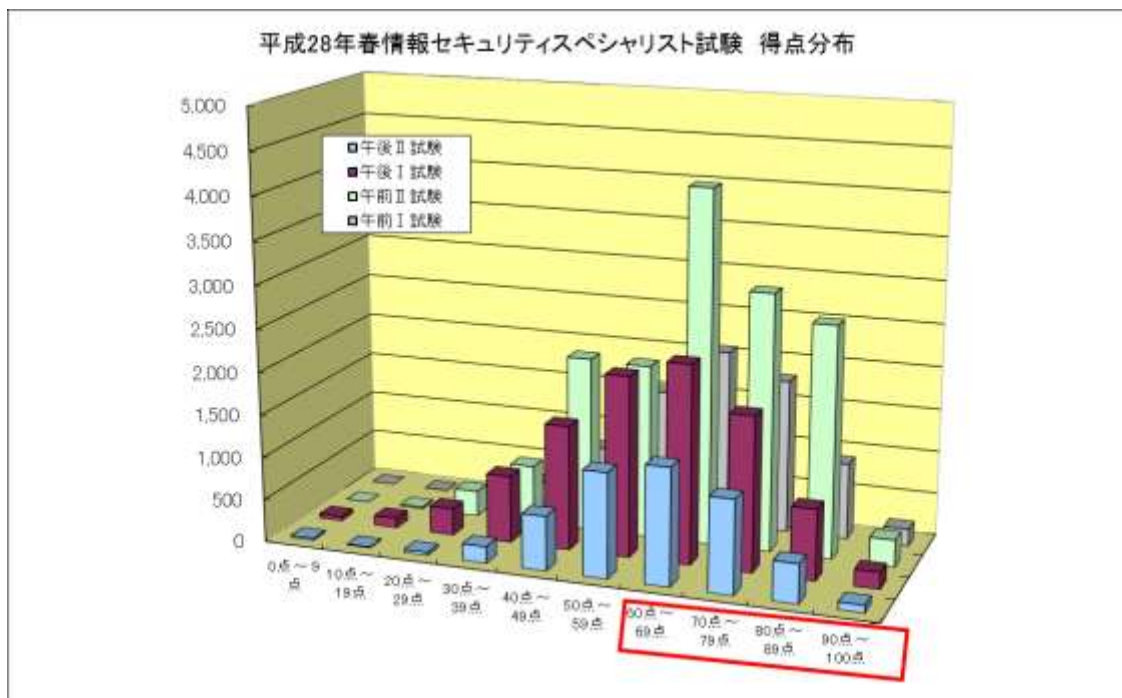
問2 テレワークのセキュリティ(システムインテグレータ) 普通

テレワーク環境、クラウドのセキュリティガイドライン、パーソナルファイアウォールの機能、マルウェアの検知と調査、セキュアプロキシのログ、マルウェア侵入経路、感染再発防止策、未知マルウェア対策、仮想デスクトップ環境の利用

### (平成28年春期 情報セキュリティスペシャリスト試験 スコア分布)

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	1	52	25	
10点～19点	3	20	116	11	
20点～29点	51	299	317	38	
30点～39点	247	685	788	194	
40点～49点	759	2,044	1,454	635	
50点～59点	1,522	2,026	2,100	1,219	
60点～69点	2,072	4,111	2,306	1,358	
70点～79点	1,796	2,988	1,798	1,086	
80点～89点	893	2,692	824	456	
90点～100点	200	316	196	88	
計	7,543	15,182	9,951	5,110	2,988
対前試験比率		201.3%	65.5%	51.4%	58.5%
午前Ⅰ免除者(概数)	10,600	58.4%			

合格者数	2,988	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	4,961	65.8%	1,973
午前Ⅱ60点以上合計	10,107	66.6%	7,119
午後Ⅰ60点以上合計	5,124	51.5%	2,136
午後Ⅱ60点以上合計	2,988	58.5%	0



新試験制度で午前Ⅰ試験免除になった人がたくさんいますが、得点分布を分析してみると、今回午前Ⅰ試験の免除者は概算で10,600人(58.4%)おり、受験者の大半の人が午前Ⅱからの受験となっています。

高度系共通の午前Ⅰ試験で基準点(60点)以上の方は4,961人(受験者の65.8%)でした。比率では前回の51.2%から約15%ほど上がっており、午前Ⅰ対策をしっかりと行って受験された方が多かったと思われます。

午前Ⅱ試験で基準点以上の方は10,107人(受験者の66.6%)でしたが、前回の81.0%と比べると15%ほど下がっています(前々回は61.4%)。前回の試験はかなり易しい問題が多かったといえますが、今回は平均的な難易度の問題だった結果が出ています。

午後Ⅰで基準点(60点)以上取れた人は採点者の51.5%で、前回試験の51.9%とほぼ同じです。また、午後Ⅱで基準点(60点)以上取れた人は採点者の58.5%で、こちらは前回試験の52.4%に対して5%以上増えています。

高度系の試験では、午後Ⅰ、午後Ⅱ対策が合格の鍵を握りますので、次回試験に向けて早めに対策を始めてください。

### (今回合格された人)

今回見事合格された方で、16 秋期試験でネットワークスペシャリスト・IT ストラテジスト・システムアーキテクト・IT サービスマネージャの試験合格を目指す方は、午前 I 試験は免除になりますので、午前 II の専門分野知識について、なるべく早く試験対策を開始してください。まずは各試験の専門分野の基本的な問題（応用情報技術者試験の問題）から解いてみましょう。

高度系種別を受験するにあたっては、出題範囲を網羅した通信教育の『スタンダード午前 I 免除コース』がおすすめです。基礎から段階的に知識の積み上げを行いたい方には「書籍」「WEB 教材」「WEB テスト」「公開模試」の合格のために必要な知識を体系立てて身に付けることが可能なコース学習『スタンダードコース』がおすすめです。

その他、学習にあたっては、午前試験対策に重点をおいた『宿題メール』。午後試験対策には、受験対策のプロ講師から直接学べる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。午前 I が免除になり、かつこれまでの学習で身に着けた知識が鮮明なうちに次の資格試験にチャレンジすることが、合格への近道です。次のステップアップを目指しましょう。

### (今回残念ながら不合格だった人)

まず、午前 I の試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が重要です。時間のない方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」の書籍を活用し出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。

今回の午前 I・II 試験の得点が 50 点～59 点だった方は、合格ラインまで“あと一歩”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

午後試験の得点が 60 点未満だった方は、まず午前 II の「専門知識」の内容に関して、試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受験するなど、本番を想定した学習を行うが効果的です。

再受験のための学習にあたっては、弱点補強中心に学習を行いたい方やすでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの『プラクティスコース』、講師から直接指導を受けることでその場で自身の弱点分野を把握、克服ができる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』がおすすめです。

その他、各種豊富な学習メニューを用意しております。

情報セキュリティスペシャリスト試験に合格するためには、午後 I、午後 II 試験の対策を確実に進める必要があります。アイテックの通信教育、セミナーの受講で栄冠を勝ち取ってください。

2016 年秋期試験対策の新しい書籍や研修案内については弊社のホームページからご覧ください。

<http://www.itec.co.jp>